

「ハツ場ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

平成 23 年 11 月 8 日（火）14:20～14:35

利根川上流河川事務所 2 階大会議室

発言者：意見発表者 3

こんにちは、私は加須市大利根婦人防火クラブの●●を務めさせていただいております●●と申します。よろしく願いいたします。今日は、ハツ場ダム建設事業につきまして、意見発表の機会をいただきましてありがとうございます。1 番ということではちょっと不安ですが、よろしく願いいたします。座らせて失礼させていただきます。

ハツ場ダムのできるだけ早い完成は、利根川流域住民の切なる願いでございます。昭和 22 年のカスリン台風の際、旧大利根町の堤防が決壊し、埼玉県から東京都の広い範囲で大きな被害をもたらしました。当時の状況を少しお話をさせて下さい。もう皆様はご存じのことと思いますが、利根川の堤防が決壊したのは 9 月 16 日午前 0 時 20 分だったそうです。私は当時まだ生まれておりませんでした。母親のお腹の中におりました。ですから当時の様子は何も知りません。ですが祖父母や母親から常々聞かされて育って参りました。木々や家屋あらゆるものが流され浸水し、なかなか水も引かず、食べるものも少なく、配給されたパンは真ん中からこうちぎりますと、糸を引くようなパンだったそうです。なかなか食べられなかったようです。9 月といいますと真夏の暑い時期でございますので冷蔵庫等もなく、物は傷んでしまったんじゃないかと思えます。でも食べなきゃ、お腹も空いて生活も生きていかないと、それをみんなで分け合って食べたそうでございます。私の家族は、隣の家の水家と言いまして高台があるんです。そちらに隣近所大勢の皆さんとともに生活をして、時々、船を漕いで水がまだ引いておりませんので 2 階の窓から出入りをしておったそうです。このような大変な生活は、もう子供や孫にはさせたくないと言う口癖に話しておりました。本当に辛い生活だったんじゃないかと思っております。母親は特に、私がお腹におったものですからとても大変な思いをしたそうでございます。私はいつも台風や大雨の降り続いた後は、必ず利根川を見に参ります。普段見ている利根川は、とても穏やかなんですね。でも、大雨の降り続いた後は、川幅は倍の広さになりまして濁流となり、ものすごい勢いで流れているのを見ますと、とても怖い思いがいたします。また、平成 13 年ですか 9 月にも大越地域あたりで大規模な漏水が起こり、消防団の方々が出動されたそうです。私たちは常に利根川とともに生活しております。そして、今年、3 月 11 日の東日本大震災でもそうでございますが、地震そのものの被害よりも津波による被害はるかに大きかったようです。水害は何もかもみんな飲み込んでしまいます。地震ももちろん怖いですが、水害はもっと恐ろしいと思えます。災害対策は、国の使命の一つではないかと思えます。東日本大震災でも、防波堤などの津波対策をしていたにもかかわらず、それをはるかに超える大きな津波が押し寄せ、大災害となりました。自然災害に対して、これで十分と言うことはあり得ないのではないのでしょうか。国は生命・財産を守るために、あらゆる手段を尽くすべきではないのでしょうか。私は、ハツ場ダム建設にあたり、数十年前のお話を思い出しました。これは私事ですが、息子のインターハイ出場が決まりまして、場所は九州の宮崎で開催されました。その時に応援いたしました保護者の皆さんは、開催地よりも遙かに遠い阿蘇の山々を越えて走り抜けて、山奥の古びた旅館だったんです。そこは、まもなくダムの底に沈んでしまう町であったそうです。その女将さんと 3 泊、たぶん 3 泊させていただいたと思うんですが、女将さんのお話ですと、この町はもうじきダムの底に沈んでしまうんです。とっても寂しいです。でも、ダムができ、安心して住民が生活がおくれるの

であれば、しかたないですよねと、しみじみと語ってくださいました。私も一緒になんか涙が出た思いがします。それに比べますと、八ッ場ダムは、住民の皆さんはもう古くから、住み慣れた土地を離れ、新しい生活を始めようとしております。八ッ場ダムが、利根川の治水対策上現実的で有効的な方法であるということが明らかになったんでございますから、早期に着工し、完成を目指していただくのが、国の責任ではないかと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

最後に、八ッ場ダムは私たちの命、そして財産を守るダムでございます。どうぞ一日も早い着工をし、完成を目指していただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。以上で私の発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。

以上